



ひとにやさしく がんばりすぎずに継続し勇気をもって しっかり学ぶ 東っ子! 413名

【今回の学校だよりは、電子媒体のみでの配信となります。児童用には教室に先生方が掲示していただいています。(〽)】

明日の1校時目は全体練習1日目です



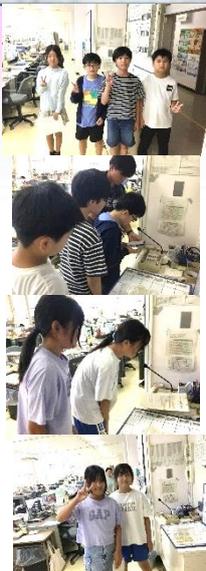
6日の今日、5年生と6年生が、それぞれ、5時間目と6時間目を交互に体育館と運動場を交換して、きびきびした態度で学年体育を学習されてきました。明日は晴天のようです。8:45に中央整列、開閉会式、ラジオ体操、時間があれば応援席への配置に移動する練習、最後に運動場の小石拾いです。特にラジオ体操の師範的な役割を担う体育委員会の皆さんは先生方と一緒に手の動きをお願いします。演技する全員の児童とは、向かい合わせですのでその児童の皆さんと反対(左からスタート)の手や足の動きになります。中学年の児童の皆さんや、低学年の児童の皆さんをリードする立場で大変とは思いますが、よろしくお願いします。(僕や先生方の手足の動きをまねしてみながらしてください。・・・少し前で僕が演技しますからね。横目で見てください。大丈夫です。反対に手を動かし続けて四捨五入で約40年ですから・・・すみません、この日は朝から出張でラジオ体操までは見れません。屋上から写真を1~2枚撮ったら学校を出なくてはなりません。残念です。(〽)

ps 水筒(お茶・水分・アルカリイオン飲料を入れてきて可也)と紅白帽子を忘れずをお願いいたします。(〽)

(写真は、5年生と6年生の皆さんです。申し訳ございませんが、動きが速すぎて上手なお子さんほど写真が二重三重になっています。)



委員会活動の頑張り アナウンス編



6年生のみなさん



勇気をもって挨拶・・・

本日、給食の終わり3分間の時間でしたが、本校在籍中に病で入院され、ご逝去された私の恩師野見山嘉昭校長先生の「道徳の自作教材」を読ませていただきました。地域の皆様からパトロールをしていると、こちらがあいさつしてもあいさつが返ってこないのが心配です。とうかがいました。ちょうど、私が新任の時の片島小学校の時の「勇気を持つということについて考えよう」という野見山嘉昭校長先生の自作の道徳の教材のお話を思い出しましたので、原稿を読ませていただきました。

古い紙媒体の指導案でしたので、うまく変換できていないかもしれませんが、あいさつをするのは恥ずかしいけれど将来いつか必ず何かの役に立つ日が来るのではないかなと思います。大人でもためらうあいさつ、不審者と思われて困るということも今日では希薄化が進む中、人としてあいさつは大切なコミュニケーションではないかとおもって、お話を読ませていただきました。オープンエンドで感想などは求めません。それぞれであいさつについて感じてほしい。日ごろの習慣や心の準備がいざという時に出るということ。友達同士、どこかライブでもあり天邪鬼（あまのじゃく）などところある思春期。いろいろなやみながらも人として正しい判断力を持った勇気のある子どもから青少年、そして大人に成長してほしいなと思っております。おこくなりになられた第14代飯塚東小学校校長の野見山嘉昭先生も今日の十五夜から明日の満月のよき日に虹の向こうでそう思われながら、優しくたたくさんの東校区のOBやOGのみなさまと一緒に子ども達を見守っていただいているのではないのでしょうか？

「勇気をもって・・・」 第33代片島小学校校長、第14代飯塚東小学校校長野見山嘉昭 原作・・・故：野見山校長先生道徳教育自作教材から

ある国に、お家の事情で勇気を出せない、あいさつをしないはずかしがり屋の女の子とはずかしいけれど勇気を出して挨拶できる女の子がいました。

二人とも賢い女の子2名でした。でも、賢いので少しするをすることも知っていました。

学校では、音楽の授業の時、あいさつをしないで恥ずかしがる子はみんなで歌う時もするをして口を開けて歌うまねだけをしました。恥ずかしいけど勇気を出せる子は一生懸命歌いました。ロバクしてうたうまねをしていた恥ずかしがる女の子について、実は先生は見抜いていましたが、みんなの前で叱るのはやめました。

国語の授業では、みんなで音読みをするときも恥ずかしがる子はロバクでよむまねをしました。先生は見抜いていましたがみんなの前で叱るのはやめました。一方、恥ずかしいけど勇気を出した女の子は心を込めて声に出して本を読みました。でも、先生は全体的に勇気を出して声に出すことはいつか自分のためになります。「はずかしくても勇気をだして声を出しましょうね。」とだけはおっしゃいました。

はずかしがり屋の女の子は「そんなことないわ。」「本番で言えばいいのよ。」とおもって、何年間もごまかし続けました。いっぽう、恥ずかしいけれど勇気をもって歌う子は何年間も家でも歌ったり音読したりしました。

その後、同じ夢や目標をもった二人は、歌手やアナウンサーになるためのオーディションを受けることになりました。恥ずかしいを理由にロバクしていた子は落ちました。アナウンサーになるための会社試験も落ちました。はずかしいけれど勇気をもって挨拶や音読や歌を真剣に歌っていた子は劇団のオーディションに合格しました。

数年が経ちました。恥ずかしがって小さいころから挨拶をせず、あいさつをごまかしていた子は、反省して陰で練習をはじめました。何年もオーディションを受け続けました。でも毎年落ち続けました。ある日の事、悪い人間が、恥ずかしがり屋でロバクの女の子をさらおうとしました。とっさのことで声が出ませんでした。

そのときです・・・。

後ろから「誰かきて助けてー！」と大きな声が聴こえてきたかと思うと、悪い人間は慌てて車で逃げました。なんという偶然でしょう・・・恥ずかしいけれど、勇気をだせる幼なじみの女の子が奇跡的にも帰省していて声をふりしぼって叫んでくれたのです。

恥ずかしさを理由に挨拶や歌をごまかしていた女の子は、助けてくれた恥ずかしいけれど勇気をだして歌ったり音読したりする子を目の前にして勇気をだしてはじめて次のような言葉をいきました。

「たすけてくれてありがとう。」 「うん。こわかったね。 私もこわかったよ。いつも応援してるからね。」

二人はだきあって泣きました。

恥ずかしがっていた女の子が家に帰った時、神様が見ていたのでしょうか・・・。

うちの人が何か叫んでいます。 「おーい。オーディションに追加合格したという電話がはいていたぞ～。やったね。おめでとう。」

勇気が出せなくて恥ずかしがって挨拶をためらっていた女の子は 勇気を出し、これまで恥ずかしがっていた女の子と思えないくらい、全ての人に向かってきこえるかのように笑顔で月に向かって「ありがとう」と心から叫びました。

飯塚市からも、伊藤さんと、各局のアナウンサーさんを数多く輩出しているのは周知の事実です。私の同級生もいらっしゃいました。